

With 通信

第13号



社会福祉法人ウィズ

千葉県茂原市木崎1300番地1

TEL：0475－47－2600

FAX：0475－47－2700

ごあいさつ

理事長 三好 恵里子

令和7年5月発行

大阪・関西万博が4月13日～開催されています。テーマは「いのち輝く未来社会のデザイン」です。50年後、100年後の未来はどんな世界になっているのかな～と、思いを馳せています。万博自体、申し込みはネットが主、会場では現金は使えません。時代を反映していますが、多くの高齢者や障害者是对応できない！と感じてしまいます。

昨今、一部銀行の通帳は有料化となり、ATMの機械も減少している、多くの書類が押印不要になり、図書館では電子図書を貸し出してくれるなど変化があります。ウィズでも遅ればせながらタイムカードから勤怠管理システムに変更しました。しかしまだまだ慣れておらず、右往左往しています。ペーパーレス化が進んでいることを実感する一方、福祉の世界では、保管する物、他事業所に渡す書類、いただく書類も多いのが実際です。業務を行った証明とペーパーレス化の狭間で、いかに効率よく仕事をするかが課題となっています。未来はどうなっているのでしょうか・・・。

さて、ウィズでは昨年・一昨年と新たな活動はせず、現場に力を注ぎました。それでもいろいろな事があり、物価の高騰は私達の生活を脅かせ、事業所としても食費や日用品などいたるものに影響がありました。当法人でも食費をどうしても上げざるを得ない事業所もありました。昨年千葉県の最低賃金は1,026円から1,076円に上がりました。大手企業では大幅な賃金アップがあったというニュースもありましたが、福祉サービス事業所の場合は収入の元である報酬単価が上がらないと大幅な賃金アップは望めません。前年度に報酬単価の改定があったものの満足できるものではありませんでした。事業によっては現状では収入減となるため、時間や人員配置などを工夫しながら元の報酬単価が得られるように改定しました。

人材不足の福祉の世界は報酬単価の大改革がないと、なかなか人が集まらないと感じます。地域では職員が集まらずに閉鎖してしまう事業所も出てきています。良いサービスをするためには良い人材が必要であり、そのためには待遇が良くないといけません。福祉に関わる方々は思いのある方が多いのですが、継続するためには思いだけに頼ることはできません。

さて、そんな数々の悩みをもちつつも今年度は少しずつ動き出そうと思います。まずは民堵（相談事業所）の修繕、ARUKU（就労事業所）の利用者および職員の職場環境の改善のための改修工事などを予定しています。車椅子の方でも受け入れられるようになればと考えています。10月からの就労選択支援事業（後記参照）等も詳細の情報をキャッチしながらですが前向きに考えています。さまざまなことがおこる毎日ですが、どんな時でも前向きに考え、職員たちと未来をデザインしていきます。



ウィズ

近年、障害福祉サービスを提供するにあたり、支援の質の確保が重要な課題となっています。住居や生活の場、運営が閉鎖的になる恐れのあるサービスでは地域の関係者を含む外部の目を入れることが事業運営の透明性を高め、一定の質の確保に繋がると考えられています。そのため地域連携推進会議の開催と、施設訪問の導入が今年度より義務化となりました。構成員には利用者、利用者家族、地域住民（自治会、民生委員、学校関係者等）、福祉に知見のある方、経営に知見のある方、施設等所在地の市町村担当者等が含まれます。

ウィズでも地域連携推進会議を通じて利用者と地域の関係づくり、地域の人への施設や利用者に関する理解の促進、サービスの透明性・質の確保につなげていきたいと思っています。

4月1日より新たに「エンネ」という男性専用、定員4名一軒家タイプのグループホームを茂原市小林で開所しました。「エンネ」とはフィンランド語で「縁、つながり」という意味です。ウィズと関わる一人ひとりとの縁を大切に、人生をより充実させることに繋がるよう、この名前にしました。

新茂原駅まで徒歩で約10分、周辺にコンビニやスーパーがあり、買い物もお出かけもしやすい場所となっています。現在空室がありますのでご興味のある方はぜひ見学・体験にいらしてください。お待ちしております。（三好優）

新しいグループホームができました！



のんびりできる広い居室



開放的なリビング



きれいなキッチン



閑静な住宅街の一軒家

民堵

相談支援専門員の人数が減り、今年度から機能強化型Ⅲという区分で運営しています。新規のご相談は他事業所に受け入れのご協力をいただくこともありました。そのため、今年度は現在、相談支援員として活動している2名の職員の「相談支援専門員初任者研修」の受講と、人員体制の強化を目指しているところです。



最近では障害分野だけでなく、地域包括支援センターなど介護分野との関わりも増えてきています。多職種との連携、迅速な対応を心掛け、相談員一人一人が幅広い知識を持って必要な情報を利用者の皆さんへ提供できるよう努力していききたいと思います。（吉田）

EMU

開所して6年目を迎え、利用者の方も多く利用され笑顔も増えている事業所となりました。利用者増加に伴う送迎ルート変更、工賃評価の見直し、希望が多かった余暇活動の増加、菓子部門での新商品の製造等をおこない今年度のスタートを切りました。安定した就労収支確保等の課題はありますが、安心して通所し楽しみや喜びを見つけられる事業所にしていきます。また10月からは就労選択支援も始まります。これからも個々の利用者の思いを汲み取り、寄り添い、職員が自己研鑽し支援力を高め、就労事業所としての役割を果たしていければと思います。（高田）



ARUKU

軽作業では主力である光金属株式会社のボールペン組立作業以外に、安全ピンや割り箸の袋詰めなどの受注作業を増やしました。また、農業と福祉の連携で郡市の畑の収穫作業にもEMUと協力しながら、参加しています。

喫茶菓子作業は市役所弁当販売を茂原と大網白里2つの自治体に増やし、地域の販売会や企業への焼菓子詰合わせの対応等、様々な作業を利用者、職員ともにみんなで頑張っています。ARUKUの皆で社会に貢献するという意味でも働く事を大事にし、これからも頑張っていきます。（佐瀬）



じょい

現在、生活介護27名、自立訓練14名（内訪問4名）の登録者がおり、一日平均合わせて20名程度の方が利用しています。生活介護では、調理・園芸・レクリエーション・カラオケ・健康プログラムなどがあり、自立訓練では、グループワークで一つのテーマについて話し合いを行ったり、個人プログラムでは目標に向かってPCで動画を制作する方や体力づくりをする方など様々です。



今年度の行事は、買い物（ユニモ）・カラオケ（カラオケ館）・お花見（茂原公園）などがあり、行先は全体ミーティングで決めています。昼食は毎日おいしい食事を専属職員が作っています！（八田）

～TOPIX～

僕らはみんな生き生き展



3月7日（金）～10日（月）の4日間、茂原アスモ1Fセンターコートを会場に長生・夷隅地区福祉施設連絡協議会が主催した「僕らはみんな生き生き展」が開催されました。これは長生・夷隅郡市の福祉施設、特別支援学校が集まり、展示販売会を実施することにより、地域の人々にハンディキャップを持つ人たちへの理解を深めてもらうことを目的として製作した商品の販売や施設の紹介などを行うイベントです。

（ARUKU）

就労移行支援・就労継続支援B型事業所のARUKUからは、前回も好評だったシフォンケーキやお菓子と新作のフィナンシェも作り販売しました。その他にもオーナー様のあるくBOXを展示販売いたしました。お客様から「ARUKUって新茂原駅前にあるお店ですよね」などとお声かけして頂きました。改めて地域の方々に支えられ、このような活動ができていると感じています。今後もこのようなイベントに参加し各事業所の認知を広げていきたいと考えています。（白鳥）



（EMU）

EMUからは、新規事業として準備を進めている菓子部門の「手作り米粉マフィン」を出品。しっとりとした生地に優しい甘みが特徴の新作マフィンは大好評をいただきました。

施設紹介パンフレットにも関心を寄せていただき、福祉活動への理解を深めていただく貴重な機会となりました。このイベントを通じて、障がいのある方々の活躍の場が広がり、地域の皆様との絆がより一層深まったことを実感しています。ご来場・お買い上げいただいた皆様、本当にありがとうございました。（中村）

グループホーム イベント

いちご狩り：「わー大きな苺！」と、一口では食べきれないほどの苺に舌鼓を打った顔は最高の笑顔でした。広い空間を20名程で独占しゆっくり楽しむ事ができました。味比べする人、数えながら口に頬張る人、休憩所でゆっくり味わう人など各々の楽しみ方でお腹も心も満たされたようです。マクドナルドで昼食も参加者同士が交流出来て、とても有意義な時間を過ごすことができました。（重田）



映画鑑賞：初夏のような少し汗ばむ陽気の中、『U.S.シネマちはら台』で映画鑑賞をしました。チケットの購入が出来ない人にはフォローしてくれる方がいたりせっきくの外出だからと回転寿司やラーメン、春限定のアイスクリームなど好きな物を満足するまで食べる人など、参加者全員の楽しむ様子がありました。花より団子だろうと思っていた感想も映画鑑賞の悲喜こもごもな意見が聞けました。（金澤）



研修報告：少年院見学



社会福祉法人ウィズでは、福祉や医療が必要なのに繋がらなかったり、環境不良などのために罪を犯してしまった障害者の地域生活を支援していることから、少しでも理解を深めることが必要だと考え、八街少年院へ見学に行きました。

見学時には少年たちに実際に触れ合う機会はなかったものの、彼らの絵画や木工作品などが飾られていて、彼らの生活を想像することができました。庭には桜が何本も植わっていましたが、脱走などを危惧し少年たちの花見はできないと講師の先生は話しており、ここが少年院なのだと改めて実感させられました。また、ここでは全国でも珍しいG M a C（ジーマック）という動物介在活動プログラムを実施しており、自尊感情を高めるのに役立つそうです。（田中）

研修報告：スマホ・ゲーム依存



2月7日に長生郡市総合支援協議会主催の研修を受講しました。講師は、千葉県精神保健福祉センターの岡東医師でした。

家庭用ゲームよりもスマホゲームの方が依存しやすく、無料でも遊べること、習慣化しやすい仕組みがあること、アップデートされ終わりが無いことが要因であると分かりました。また遊んでいるうちに、課金したくなるケースも多いようです。つまり、ゲーム会社が多くの人に長く遊んでもらえるよう工夫していった結果、のめり込みすぎて生活に支障をきたす方が出てしまうという構図が生じています。特に自分のスマホを持つようになる中高生への影響が大きく、改善のためには家族内でのルール作りやフィルタリングが有効だそうです。バーチャルの世界が充実している今だからこそ、現実での関わりを重視する必要があると学びました。（小林）

就労選択支援



2025年10月より新たに「就労選択支援」というサービスが創設されます。サービスの利用者が就労先や働き方について、希望や就労能力、適性等に合ったよりよい選択が出来るよう、就労アセスメントの手法を活用して支援するというものですが、反対に言えば適切な選択が出来ていない現状があるということです。一度就労継続支援A型やB型に繋がると固定化されてしまうということも起こりやすいのです。大切なのは「本人の選択」を支援するということであり、決して支援者がアセスメントを基にその先を決めるものではありません。そのため限られた期間で本人と協同しながら様々な事柄を整理し、本人の自己理解を深めることが重要であり、難しいポイントではないかと感じています。まだまだ情報は少ないですが、EMUとしての関わり方を地域と協力しながら考えていきたいと思っています。（森岡俊）

利用者の声

私はじょいを利用し始めてもうすぐ2年になります。人見知りの私は最初は緊張しましたが、利用を続けていくうちに、気さくで優しい職員をはじめ、他の利用者さんと打ち解けて、それぞれが持つ、障がいの垣根を超え、楽しくプログラムなどを行っています。特に私が取り組んでいるプログラムは、自立訓練のグループワークです。この場ではテーマに沿った話題で、話し合い等を行い、有意義な時間を過ごせています。また、食事も美味しく、私を含め利用者のこころと胃袋を掴んでいます。これからもじょいを継続して利用したいと思っています。（じょい 大塚さん）

私はウィズのグループホームのステラで3年間お世話になっています。週に3日EMUに通所しています。EMUではパソコンを使ってデータの入力を主に行っています。また、献立表や掃除の当番表も作っています。楽しく仕事ができます。施設長さんがとても優しく、色んな相談に乗ってくれます。職員さんも仕事でわからないことがあるとすぐに教えてくれます。助かっています。グループホームステラの職員も話やすく、何でも相談に乗ってくれます。これからも困ったことは職員さんに相談しながら楽しく日々を送りたいと思っています。（EMU 柏木さん）



声を届けてくれた利用者の皆さん、ありがとうございました！
これからも皆さんの声をたくさん支援に活かしていきたいと思っています。

虐待防止委員会

本年度より新たに委員長を引き継ぎました。虐待防止委員会と身体拘束適正化委員会とともに権利擁護を進めていく重要な役割を担っています。

「自分たちが権利侵害することは有り得ない」という考え方ではなく、「起こりうるもの」として小さな芽を見逃さないようにしたいと思います。

今年度も昨年度に習い、6月に利用者・職員双方に利用に関するアンケートを実施し、その結果を基に9月に全職員対象の研修を行う予定です。昨年は支援場面を再現した動画を作成したことでわかりやすかったという感想が多かったため、今年もさらに工夫をして職員の知識と支援の質の向上を図ります。

（森岡俊）



BCP委員会

昨年度から自然災害と感染症それぞれについて、BCP（業務継続計画）の運用が始まりました。その後、幸い現在までに実際に災害や感染症で業務停止に至るような事態は起きていません。しかし、いつ起きても対応が取れるように計画の見直しを随時行い、事業所ごとに備品のチェック、購入などを行っています。

年度が替わり職員の体制も変化がある中で、運用開始した計画の必要性和内容を確実に引き継いでいくこと、そして具体的な場面を想定した訓練を実施していくことが、今後の課題と捉えています。また実際に事業継続が困難な状況では、法人内の備えだけでなく、予め関係機関との協力体制を構築しておくことが重要と考えています。（小林）



衛生委員会

2024年度は、年間の安全衛生テーマとして5S活動を掲げました。5Sとは、職場環境を整えるための5つの要素「整理」「整頓」「清掃」「清潔」「しつけ」のことです。毎月、職場巡視を行い、危険箇所・改善箇所を洗い出します。その後、衛生委員会で施設長たちと巡視結果を共有し、改善していきます。この活動もかなり浸透してきました。ただ、その時は改善しても、しばらく経つと元に戻ってしまうことも間々あります。

そこで、2025年度は「しつけ」に重点を置き、全職員が「整理」「整頓」「清掃」「清潔」を徹底し、それが当たり前になるほど習慣化した状態（しつけ）の実現に向かって、啓発活動を行っていききたいと思います。（藤崎）



研修委員会

昨年度の法人内研修では各事業所のサービス内容や取り組みについて、各事業所職員が講師となり説明を行いました。これにより各職員が自事業所だけでなく法人全体の事業をより深く理解できたと感じられました。また職員が講師を行うことで講師をする職員側の育成も図れたと思います。

虐待防止研修では自作の動画を作り視聴した後、グループワークを行い活発な意見交換ができました。またBCP、感染症予防、合理的配慮などの研修も行い幅広く学習できたと思います。

今年度は、「緊急時対応の仕方」や「事業所案内の仕方」など、実際に役立つ研修を行い、1人1人の意識を高めていきたいと思います。（榎本）



感染症委員会

感染症委員会が発足して2年目となりました。4月初旬には、第1回目の感染症委員会を開催しました。また、新人研修では4名の新人職員と手洗いの研修と訓練を行いました。指針の説明と正しい手洗い動画の視聴後、手洗いチェッカーを用いて洗い残しの確認をし、参加者からは「わかりやすかった。」という感想をいただきました。今後活動の予定は、3ヶ月に1回以上の委員会開催で各事業所の吐しゃ物対応セットの保管場所と必要道具の確認を行います。年に2回の研修と訓練は7月の会議で内容を決定するため、各事業所の委員は内容を考えて発表することになっています。今後も分かりやすい研修と訓練を行い、感染予防に取り組みます。（石井）



広報委員会

昨年度は、法人内、法人外の沢山の方々のご協力を受け、ウィズのマスコットキャラクター選出という大きなイベントがありましたが、このマスコットキャラクターを活用した法人の宣伝をするには至りませんでした。

今年度は、キャラクター「ユウ」を最大限に活用し、名刺や封筒、その他イベント等、様々な所でユウと社会福祉法人ウィズを目に留めていただけるよう工夫をしていきたいと思います。Instagramやホームページでは各事業所の活動紹介、現場で働いている職員の声などを随時更新し、皆様への情報発信を積極的行っていきますので、是非ご覧ください。（吉田）



まちがいさがしのコーナー

※全部で8個間違いがあります。



難しいまちがいもあるので、周りの人と協力してやってみて下さい。答えはインスタグラムで掲載しています！

まちがいさがしを作成してくれたEMUの柴崎菜々美さん、ありがとうございました！

ウィズ祭りのお知らせ

例年8月に開催しておりましたウィズ祭りですが、今年度は**11月1日（土）**に変更して開催となります。場所は例年通り「じょい」にて開催いたします。皆様に楽しんでいただけるようさまざまな企画を準備いたしますので、ぜひご参加ください！今後、詳細が決まり次第、改めてご案内いたします。（榎本）



会員募集のお願い

この法人の目的にご賛同いただき、この法人の活動に援助いただける個人及び団体の会員を募集しております。

年会費 一口1,000円（一口以上）



編集後記

新年度の慌たしさも落ち着いた頃でしょうか？新しい事に挑戦できる時期と考え、グループホームの詳しい情報を大々的に1ページ載せてみました。また、まちがいさがしのコーナーでは利用者さんが作成したものを掲載し共に広報活動ができたと思います！（生田目）